

第3章 境線（境港～米子）

※概要、旅プランは第2章参照

2日目：8月1日（金）晴れ：境港～米子

2025年8月1日（金）晴れ、伯備線などの旅の2日目は、境線（非電化単線）の境港駅から米子駅までの営業キロ17.9kmに挑戦する。0番ホームには鬼太郎、ねずみ男、ねこ娘など妖怪一色のホームであった。2両編成の車両が停車していた。本日はホテルで朝食をとり臨む。昨日の疲れで、米子から境港までうとうとしての移動となる。沢山の高校生の姿があった。上道駅で沢山の高校生が下車する。境線はフコク生命時代の友人2人が利用していたことを遠い昔インプットされていたので、いつかこの路線を踏破したいと思っていた。それが今回の旅で実現する。境港駅に降りても海が見えてこない。見えて来るのは山でビックリ。当初は境港駅に面した海を確認しないまま馬場崎町駅を目指す、それでは後悔が残ると思い引き返す。20分位ロスタイムが生じる。今も久しくさせて頂いている友人が、隠岐の島出身で帰省の都度利用していたフェリー乗り場を確認する。友人によるとシーズンにより3から4往復とのこと。所要時間は9時発で11時25分着とのこと。境港をデジカメに収め、かつ、ゲゲゲの鬼太郎（水木しげるさん作）を中心とする妖怪を再度デジカメに収め、馬場崎町駅を目指す。



※いざ出発、米子駅



米子駅～ねずみ男



※米子駅の 0 番ホーム



※境港駅



※境駅～鬼太郎駅



※妖怪倉庫



※境港駅



※隠岐の島フェリー乗り場と境港



各駅舎立ち寄り時刻は次の通り。今回の旅で、もっとも楽なコースであった、すなわち、米子が終着駅のため時間による制約もなく、また境線に沿った道筋が概ね平坦であったからだ。一方、境線は次表のように妖怪でリンクされた駅舎となっており、ゲゲの鬼太郎を思い出しながらの歩きとなる。このように何かとリンクした路線は、京都丹後鉄道、土佐くろしお鉄道（ごめん・なはり線）、ひたちなか海浜鉄道でも見られた。

境港(8:50)～馬場崎町(9:31)～上道(9:48)～余子(10:16)～高松町(10:32)～中浜(10:55)～米子空港(11:10)～大篠津町(11:46)～和田浜(12:17)～弓ヶ浜(13:07)～河崎口(13:52)～三本松口(14:29)～後藤(15:03)～富士見町(15:40)～博労町(15:54)～米子(16:18)

駅名	妖怪名	摘要
境港	鬼太郎	
馬場崎町	キジムナー	
上道	一反木綿	あがりみち
余子	こなきじじい	あまりこ
高松町	すてこすり	
中浜	牛鬼	
米子空港	べとべとさん	
大篠津町	砂かけばばあ	
和田浜	つちころび	
弓ヶ浜	あずきあらい	
河崎口	傘化け	
三本松口	そでひき小僧	
後藤	どろたぼう	
富士見町	ざしきあらし	
博労町	コロポックル	ばくろまち
米子	ねずみ男	

①鉄道の左側を歩く。くねくねした路地を歩き、馬場崎町駅には9時31分に到着する。そして、道なりに歩いた先に上道駅（9時48分）があり、一反木綿の妖怪の姿が印象的であった。



※馬場崎町駅への路



※馬場崎町駅



※上道駅への路



※上駅道

②9時50分、中野第2踏切を横切り、鉄道の右側となる。10時13分、渡里踏切を横切り鉄道の左側となる。10時14分、鈴子神社前で本日の安全を祈願する。少し歩いた先で余子駅（10時16分）があった。”こなきじじい”の姿を見て懐かしくなる。土讃線の大歩危駅にあった”こなきじじい”を思い出し懐かしくなる。ここから少し歩いた先に高松町（10時32分）があり、もう少しで通り過ぎそうになる。



※余子駅への路



※余子駅



※高松町駅への路



※高松町駅

③夏本番にも関わらず、森や林の中から、夏の風物詩である蝉の鳴き声が聞こえず、もしかすると異常気象に影響かと心配する。これからの道筋、蝉の鳴き声に傾注するが、残念ながら聞くことができず、不安となる。10時48分。寄会神社前を通過。10時51分、中浜保育園前を通過。トイレ設備がある中浜駅には10時55分に到着する。中浜踏切を横切り右側となり、線路沿いを歩いた先に米子空港（11時10分）があった。沢山の飛行機が離着陸して行く。11時16分、只今の気温は33℃とある。



※中浜駅への路



※中浜駅



※中浜駅



※米子空港駅への路



※米子空港駅



※米子空港駅

④11時25分、境港市から米子市となる。米子空港からの飛行機の離着陸を見ながら大篠津町駅を目指す。途中から境線から大きく乖離する。適宜ナビで道筋を検索しながら進む。11時44分、御崎口踏切を横切り、鉄道の左側となる。踏切を横切った先に大篠津町駅（11時6分）があった。”砂かけばばあ”の画像を見て懐かしくなる。



※大篠津町駅への路



※大篠津町駅

⑤再度、御崎口踏切を横切り、鉄道の右側となる。幹線道路から田んぼの向こうに和田浜駅が見える駅への道筋が見つからない。暫く歩いた先で小松山踏切があり、この踏切を横切り、少し戻った先に和田浜駅（12 時 17 分）があった。鉄道に沿った田んぼ道を暫く歩く。12 時 30 分、宮益第11踏切を横切り、幹線道路となる鉄道の右側となる。12 時 35 分、宮益第 1 踏切を横切り、鉄道の左側となる。この踏切を渡ろうとしたところ、境港方面に向かう列車が通過して行く。弓ヶ浜駅には 13 時 7 分に到着する。



※和田浜駅への路



※和田浜駅



※弓ヶ浜駅への路



※弓ヶ浜駅

⑥喉がからからとなるが自動販売機の姿はなし。工事中の道路を歩き、河崎口を目指す。鉄道から大きく迂回した道筋を歩き、河崎口駅には 13 時 52 分に到着する。この駅には“ねこ娘”の長椅子があった。その先にある境街道踏切を横切り、鉄道の右側となる。この界隈で水分補給する。ここから三本松駅への道筋はややこしかったが、

ナビが大きな援軍となった。14時5分、米子郵便局前を通過。米川に沿って歩く。14時13分、社会福祉法人こうほうえん「アザレアコート」前を通過。15時14分、米川踏切を横切り、鉄道の左側となる。この踏切界限は、米川も絡み複雑な地形であった。米川は依然右手にあった。14時26分、米川を跨ぐ柳橋を渡った先に三本松駅が見えて来る。そして、前谷踏切を横切り、鉄道の右側になった先に三本松口駅（14時29分）があった。本日一番の難所駅であった。



※河崎口駅への路



※河崎口駅



※河崎口駅、ねこ娘登場



※三本松口駅への路



※三本松口駅



※三本松口駅

⑦鉄道に沿った右側を淡々と歩く。しかし、後藤駅は見えるがこの駅への踏切が見当たらない。やむを得ず、先程歩いて来た道筋を引き返す。10分位ロスタイムが生じる。14時59分、先程通り過ぎた米原踏切を横切り、鉄道の左側となる。後藤駅には15時3分に到着する。



※後藤駅への路



※後藤駅



※後藤駅

⑧富士見駅への道筋も鉄道に沿った道筋がなく、大きく迂回した幹線道路を歩くことを余儀なくされる。幹線道路を右折して国道9号線に合流する。15時25分、ヤマダデンキ前を通過。15時28分より、途中境線を跨ぐ綿橋を渡る。途中で境線の線路は見えるが、下の道路には降りられず。100m位歩き、綿橋を終えた箇所で、綿橋に沿って線路に近づく。線路が見えるや否や富士見駅（15時40分）があった。



※富士見駅への路



※富士見駅



※富士見駅

⑨富士見駅から博労町駅への道筋もナビがなければ迷いそうな道筋であった。しかし、ナビのお陰で迷うことなく、博労町駅には15時54分到着できる。この駅は、数年前、山陰本線踏破の際にも立ち寄った駅舎で懐かしくなる。そして、幹線道路に合流して淡々と歩いた先に本日の終着駅である米子駅（16時18分）があった。万歩計は45,539歩とあった。



博労町への路



※博労町駅



※米子駅



※米子駅

⑩16時23分、ホテルに戻り汗を流した後、三顧の礼を尽くすため、太平記にお邪魔し、楽しいひと時を過ごさせて頂く。マスターに「3日間お世話になりました。明日から新見の方へ移動します。後日カッシー館をご覧下さい」と言ってこの店を去る。楽しい米子の3日間の夜であった。



※地酒で祝杯